

薬 剤 科

【平成28年度総括】

薬剤科内主な動きは、新しく(泌尿器科医師)佐藤 誠 先生が薬剤科長に就任成されました。薬学生の実務実習受け入れ(崇城大学1名)、出前講座(お薬の基礎知識 6回/年)、薬剤師公開研修会開催(年2回開催)、山鹿市介護認定審査会参加、薬一薬連携(山鹿地区勉強会・公開薬剤師研修会開催 等)、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定(6名全員)、山鹿市生涯学習講座講師、日本緩和医療学会学術大会参加、日本癌治療学会学術大会参加、日本臨床腫瘍学会参加、日本糖尿病学会九州地方会参加、院内クリティカルパス研究発表、第21回熊本県国保地域医療学会発表、がん専門薬剤師集中教育講座参加、認定実務実習指導薬剤師更新、病薬ニュース投稿、院内クリティカルパス研究発表、肝炎サロン講師、医薬品採用薬の検討・整理・ジェネリック医薬品変更、多くの業務を充実し学会・研修会等も参加・発表幅広く活動を行いました。

※平成28年度薬剤科実績 (月平均)

	H27年度	H28年度	前年度比
薬剤管理指導算定指導数(名)	295	299	4名増
薬剤管理指導算定件数(件)	334	410	76件増
入院処方せん枚数(内服外用)	2316	2602	286枚増
入院処方せん枚数(注射)(枚)	3664	4488	824枚増
抗がん剤調製数(名)	28	42	14名増
抗がん剤調製件数(件)	48	74	26件増
薬剤鑑別報告件数(件)	236	237	1件増
退院時薬剤情報提供件数(件)	329	614	285件増

【スタッフ】 薬剤科長 佐藤 誠 (泌尿器科医師)

副薬剤科長 金森 浩明: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 日本薬剤師研修センター
認定実務実習指導薬剤師 山鹿地区薬剤師会副会長 熊本県病
院薬剤師会理事

主任薬剤師 松田 光司: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師

主任薬剤師 柴田 佳代: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 日本病
院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師 がん薬物療法認定薬剤師
ピンクリボンアドバイザー認定

主任薬剤師 松尾 貴史: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 日本糖
尿病療養指導士

薬剤師 浦田 詩乃: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
熊本県肝疾患コーディネーター 熊本県薬剤会災害支援薬剤師

薬剤師 生田 佳嵩: 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
熊本県肝疾患コーディネーター

薬剤助手(半日勤務) 1名

【今後の課題・展望】 次年度は、SPD医薬品システム充実、後発医薬品変更検討、薬剤師公開研修会

開催、薬一薬連携・病一薬連携強化、山鹿市介護認定審査会参加、健康まつり参加、出前講座開催、薬学生の実務実習受け入れ、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定 等、今後多くの業務、医薬品等、見直し検討していきたいと思っております。

臨床検査科

【平成28年度総括】

主な動きは、新しく(泌尿器科医師)佐藤誠先生が薬剤科長に就任成されました。薬学生の実務実習受け入れ(崇城大学1名)、出前講座(お薬の基礎知識6回/年)、薬剤師公開研修会開催(年2回開催)、山鹿市介護認定審査会参加、薬一薬連携(山鹿地区勉強会・公開薬剤師研修会開催等)、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定(6名全員)、山鹿市生涯学習講座講師、日本緩和医療学会学術大会参加、日本癌治療学会学術大会参加、日本臨床腫瘍学会参加、日本糖尿病学会九州地方会参加、院内クリティカルパス研究発表、第21回熊本県国保地域医療学会発表、がん専門薬剤師集中教育講座参加、認定実務実習指導薬剤師更新、病薬ニュース投稿、院内クリティカルパス研究発表、肝炎サロン講師、医薬品採用薬の検討・整理・ジェネリック医薬品変更、多くの業務を充実し学会・研修会等も参加・発表幅広く活動を行いました。

※平成28年度薬剤科実績 (月平均)

	H27年度	H28年度	前年度比
薬剤管理指導算定指導数(名)	295	299	4名増
薬剤管理指導算定件数(件)	334	410	76件増
入院処方せん枚数(内服外用)	2316	2602	286枚増
入院処方せん枚数(注射)(枚)	3664	4488	824枚増
抗がん剤調製数(名)	28	42	14名増
抗がん剤調製件数(件)	48	74	26件増
薬剤鑑別報告件数(件)	236	237	1件増
退院時薬剤情報提供件数(件)	329	614	285件増

【スタッフ】

○薬剤科長 佐藤 誠 (泌尿器科医師)

○副薬剤科長 金森 浩明

日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、山鹿地区薬剤師会副会長 熊本県病院薬剤師会理事

○主任薬剤師

松田 光司 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師

柴田 佳代 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務、実習指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、ピンクリボンアドバイザー認定

松尾 貴史 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士

○薬剤師

浦田 詩乃 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、熊本県肝疾患コーディネーター、熊本県薬剤会災害支援薬剤師

生田 佳嵩 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、熊本県肝疾患コーディネーター

○薬剤助手(半日勤務) 1名

【今後の課題・展望】

次年度は、SPD医薬品システム充実、後発医薬品変更検討、薬剤師公開研修会

開催、薬一薬連携・病一薬連携強化、山鹿市介護認定審査会参加、健康まつり参加、出前講座開催、薬学生の実務実習受け入れ、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定 等、今後多くの業務、医薬品等、見直し検討していきたいと思っております。

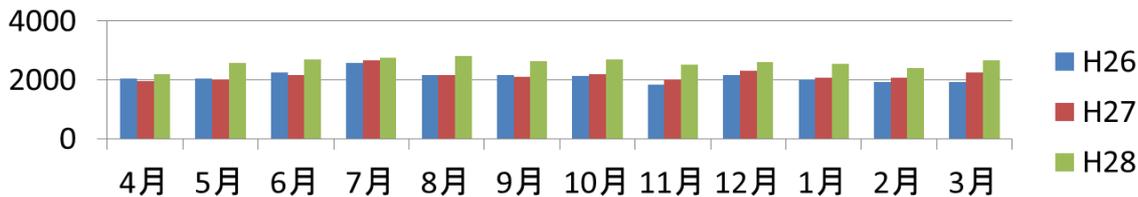
臨床検査科

【平成 28 年度総括】

平成 28 年度は機能評価受審の年度であり、臨床検査科も最大の目標として取り組みました。検査数では、各分野すべてにおいて増加しました。

また、技術向上を目的として、日臨技・熊臨技が実施する精度管理調査や各研修会に積極的に参加しました。

【主な業務実績】



生化・免疫検体数

【スタッフ】

臨床検査科長	宮村 俊一(外科医)
副臨床検査技師長	渡邊 正剛(熊本県臨床検査技師会 県北地区理事)
副臨床検査技師長	野中 裕直
主任臨床検査技師	川添 美恵子
主任臨床検査技師	坂梨 由佳(日本糖尿病療養指導士)
臨床検査技師	中小田 礼(超音波認定検査士:体表臓器、消化器、泌尿器)
臨床検査技師	伊藤 佐由美(超音波認定検査士:循環器)
臨床検査技師	緒方 かおり
臨床検査技師	田中 沙知(超音波認定検査士:消化器)

【今後の課題と展望】

チーム医療の一員として地域住民の生命と健康へ貢献することを目的とし、以下の項目を充実させることを課題とします。

- ① 検査技師としての役割と責任を自覚した業務への対応
- ② 各研修会への積極的な参加による知識と技術の習得および共有化
- ③ 他職種との連携

放射線科

【平成 28 年度総括】

- ① CT の肝臓解析ソフトが導入され、肝臓 CT が増えました。
- ② 肝臓の専門外科医が常勤医師になられ腹部血管造影が増えました。
- ③ 循環器科常勤医師 1 名増員により心臓カテーテル検査が増えました。
- ④ CR から FPD に更新されました。

	一般撮影	透視造影	内視鏡透視	CT検査	MRI検査	血管造影	画像ファイリング	骨密度	ポータブル	オベ室	マンモグラフィ	計
計	17902	674	266	6620	1933	98	3227	291	1496	208	887	33602

【スタッフ】

放射線科長	蔵元 一崇
副放射線技師長	山崎 俊直
主任放射線技師	田中 卓哉
放射線技師	福永 拓也
放射線技師	吉田 健一郎
放射線事務	多久 美由紀

【今後の課題、展望】

- 更新時期の機器を効率よく更新する。
- 共同利用 MRI のさらなる増加をめざす。
- 新しい MRI の取り扱いを熟知する。
- 検査を安全、円滑に行うために、放射線技師の増員が必要である。

リハビリテーション科

【平成 28 年度総括】

急性期から回復期の入院患者様を対象としてリハビリテーションを行って参りました。術後早期から、また発症後早期から関わり、地域の病院とも連携して早期の家庭復帰を目指すべくすすめて参りました。

実績に関しては下記に示すとおりです。

		平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比(%)
入院	疾患別	17978 人	16520 人	+8.9
		40753 単位	38914 単位	+4.7
	手 技	3909 人	3596 人	+8.7
	器 具	19 人	63 人	▲69.8
外来	疾患別	0 人	0 人	
		0 単位	0 単位	
	手 技	125 人	119 人	+5.0
	器 具	0 人	8 人	

(包括病棟を含む)

【スタッフ】

リハビリテーション科長	工藤 智志 (整形外科医師)
リハビリテーション科医長	平山 雄大 (整形外科医師)
理学療法士長	四方田 清晴
副理学療法士長	上野 高弘
理学療法士	増岡 正治
	渡邊 龍一
	福島 崇晃
主任作業療法士	脇山 美紀
主任作業療法士	牛島 由紀雄
作業療法士	松林 佑
	平尾 隆昌
助 手	原口 美子

【今後の課題・展望】

今年度はがんリハに対応できるスタッフを増やすべく研修への参加を予定しております。専門的技術・知識の向上に取り組み、他職種との連携を取りながら患者様に満足して頂けるように取り組んで参ります。また、出前講座などを通して、地域住民の健康に寄与して参ります。

栄養管理室

【平成 28 年度総括】

患者さまのお声やスタッフの気づきをもとに、献立食材や調理作業などについて委託スタッフと共に随時見直しを行ってきました。喫食者の高齢化もみられており、咀嚼に対する形態の配慮などを検討、安全で美味しい食事提供に継続して取り組みました。また、インシデント事例についても問題点や対策の検討を引き続き行ってきました。今年度は山鹿保健所よりご推薦をいただき、優良特定給食施設として厚生労働大臣表彰を受賞致しました。大変貴重な評価をいただき、栄養管理室スタッフの励みとなっております。

NSTにおいては、SGAスクリーニングをもとにカンファレンスを開催、スタッフ間での意見交換や回診を通して栄養介入に努めました。

【栄養指導件数】

年間栄養指導件数 242 件
(うち加算 181 件)

一 791 食)

	件数
入院個別	208
外来個別	20
集団	14

【食事提供数】

年間提供食数 149,982 食

(5)

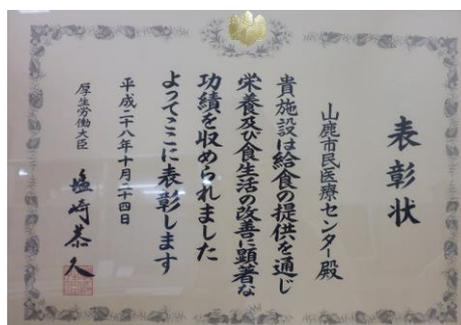
	食数	%
特別加算食	52,306	34.9
一般食	97,676	65.1

ち特別メニュー

【NST件数】

カンファレンス 42 回開催

	件数
介入検討	164
経過観察	212
食事介入	33
回診	12



【スタッフ】

栄養管理室長 児島 協
管理栄養士 2 名
栄養士 1 名
調理業務 九州フードサプライセンターへ委託

【今後の課題・展望】

平成 28 年度の診療報酬改訂より、栄養指導に関する見直しが行われました。患者さまおひとりに対する介入時間の延長によりこれまで以上に深く関わりを持ち、おひとりでも多くの方の支援に携えるよう努めて参ります。また、チーム活動等を通して患者さまの栄養状態の把握を行い、早期介入に取り組んでいきたいと考えております。

感 染 制 御 室

病院内における感染管理と感染対策のための主要な目的は、①患者様を守ること、②医療環境で医療従事者と病院利用者(訪問者)、その他の人を守ること、③可能なときにはいつでも、可能な限り費用対効果の高い方法で、①と②の目的を達成することです。現代において、新興・再興感染症や多剤耐性菌が社会的にも問題となっています。様々な状態にある患者様をはじめとする大勢の方が利用する病院内においては、感染の拡大が起こらないよう対策・管理を行わなければなりません。そのため、病院長直下の諮問機関として院内感染対策委員会を組織し、その実動部隊として感染制御チームが感染対策の活動を行っています。

1. 感染管理システム

- (1) 院内感染対策委員会開催(12回/年開催)
- (2) 感染制御チームラウンド(病棟環境ラウンド:毎週実施)
- (3) 抗菌薬適正使用ラウンド(2017年1月から毎週実施)

2. サーベイランス

	平成 28 年度			平成 27 年度		
	合計	新規	発生密度率	合計	新規	発生密度率
MRSA	76	21	0.37	64	20	0.41
ESBL 産生菌	45	22	0.39	26	15	0.31
<i>C. difficile</i>	16	10	0.18	5	4	0.08
<i>M. tuberculosis</i>	3	0	0	1	0	0
CRE	1	1	0.02	0	0	0

- (1) 院内感染症情報収集・分析・対策

3. 感染管理教育

- (1) 院内研修

日時	対象	内容	参加人数	講師
2016/4/4	新入職者	医療関連感染 標準予防策 職業感染対策 感染性廃棄物	11	ICN
2016/5/24	看護補助者	リネンの取り扱い	16	株)ワタキューセイモア 飯田寿弘 氏
2016/8/19	全職員	結核について～地域中核病院の皆様を知って頂きたいこと～	70	国立病院機構 熊本南病院 山中徹先生
2016/9/20	看護補助者	感染予防策	17	ICN
2017/3/6～	全職員	薬剤耐性菌の歴史と未来/手指衛生	181	ICD/ICN

(2) 外部研修

日時	対象	内容	参加人数	講師
2016/8/5	山鹿温泉リハビリテーション病院	標準予防策・接触感染予防策	-	ICN
2016/8/6	熊本県看護協会鹿本地区支部	感染基礎 I	-	ICN
2016/9/30	山鹿地域母子保健関係職員	園内での感染予防(嘔吐・下痢編)	30	ICN
2016/10/14	鹿本圏域看護職員継続研修	院内ラウンド	5	ICN
2016/10/15	がん患者とその家族	がんサロン日常でできる感染予防	-	ICN
2016/10/20	山鹿・菊池ブロックグループホーム職員	施設での感染予防(嘔吐・下痢)	11	ICN
2016/10/21	鹿本圏域看護職員継続研修	院内ラウンド	7	ICN
2016/11/18	鹿本圏域看護職員継続研修	吐物処理対策を考えよう	-	ICN
2016/11/25	山鹿地域母子保健関係職員	インフルエンザ予防と対策	31	ICN

(3) ICT NEWS 発行

Vol.	内容	発行日
19	院内感染対策研修会ご参加ありがとうございました 熊本県内のインフルエンザ定点報告件数	2016/4/1
20	消毒薬は開封後の使用期限を守ってください	2016/4/15
21	「スワブスティック ポビドンヨード®」の使用について	2016/6/28
22	耐性菌検出時の院内連絡システムと情報共有システム	2016/8/15
23	インフルエンザにご注意！！	2016/12/9

4. 院内感染対策マニュアル・抗菌適正使用マニュアル改訂

院内感染対策マニュアル 2016 年版・抗菌薬適正使用マニュアル 2016 年版を院内共有フォルダに掲載

5. 職業感染対策

- (1) 流行性ウイルス疾患抗体価検査実施:293 名
- (2) ワクチン接種対象者数:196 名(ワクチン接種準備中)
- (3) インフルエンザワクチン接種実施:299 名(接種割合 99.3%)
- (4) 針刺し・切創/血液・体液曝露事象発生報告件数:9 件(前年度 6 件)

6. 地域連携

感染防止対策地域連携カンファレンス参加(4 回/年)

【次年度の課題と展望】

- 医療関連感染サーベイランスを実施し、日常の感染症発生状況の把握し、アウトブレイクの早期発見に努める。また、感染予防策と感染管理に関する介入と評価を行い、医療関連感染の減少に努め、それによる医療の質の改善を図る。
- 抗菌薬適正使用プログラムを実施し、抗菌薬使用の適正化に努める。
- 職員の流行性ウイルス疾患感受性職員へのワクチン接種を実施し、院内感染拡大の防止に努める。

地域医療連携室

【平成 28 年度総括】

地域医療連携室では、当院の地域医療支援病院・急性期病院という役割の中で「地域と病院」・「患者さんと地域の暮らし」・「院内の多職種」など様々な場面での「連携」を図ることを主な仕事として取り組んでいます。地域の医療機関からの紹介、FAX紹介の患者様がスムーズに受診、入院できるよう対応し、また、MSW・退院調整看護師を中心に治療後の患者さんが安心して療養出来る環境を選択することができるよう支援してまいりました。院内の他職種との連携では、情報共有や、支援にあたってのゴールの共有、役割分担、その進行状況の確認などを行っています。

病床管理においては、予定入院・緊急入院ともに、院内全体の空床状況を見ながらその患者さんにとって最適なベッドを提供できるよう、各部署、特に各病棟師長との連携を密にし、当該病棟に空床がない場合には長期入院患者の退院促進依頼や他病棟に入院依頼することで病床を確保し利用率の向上に努めました。

【スタッフ】

今年度は4月より退院調整看護師を1名配置し、下記のような体制をとりました。

地域医療連携室室長	高木 茂(地域医療部長兼地域医療連携室室長)
看護師長	平山 恵(副看護部長兼務)
退院調整看護師	佐藤 明美(副看護師長)
社会福祉士	福島 大志、宮本 千奈美、阪梨 誠、立野 裕美
事務員	中川 美佳

【業務内容及び実績】

- 紹介・逆紹介の事務作業(返書管理・紹介元への連絡) 基準:紹介率(50%) 逆紹介率(70%)

平成 28 年度 紹介、逆紹介月別推移

単位:%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紹介率	57.6	57.4	60.3	69.3	67.5	67.7	54.7	61.5	60.4	62.8	73.9	55.4	62.4
逆紹介率	80.8	84.1	81.0	67.8	63.7	63.5	76.9	95.0	99.3	102.8	123.5	180.7	89.7

紹介・逆紹介年度推移

年度	H25	H26	H27	H28
紹介率	53.3%	53.5%	57.2%	62.4%
逆紹介率	78.1%	83.7%	67.7%	89.7%

2. 医療福祉・退院・転院支援・受診等の相談及び連絡調整(前年度比: +907 件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	517	513	459	512	555	586	578	614	531	533	479	523	6,400

3. 共同診療の実施(事務及び案内)

4. 広報誌の原稿依頼、発行(月1回発行、毎月約230部発送)

5. 公開講演会(13回開催)

6. 開放型病院運営協議会・総会(年1回)

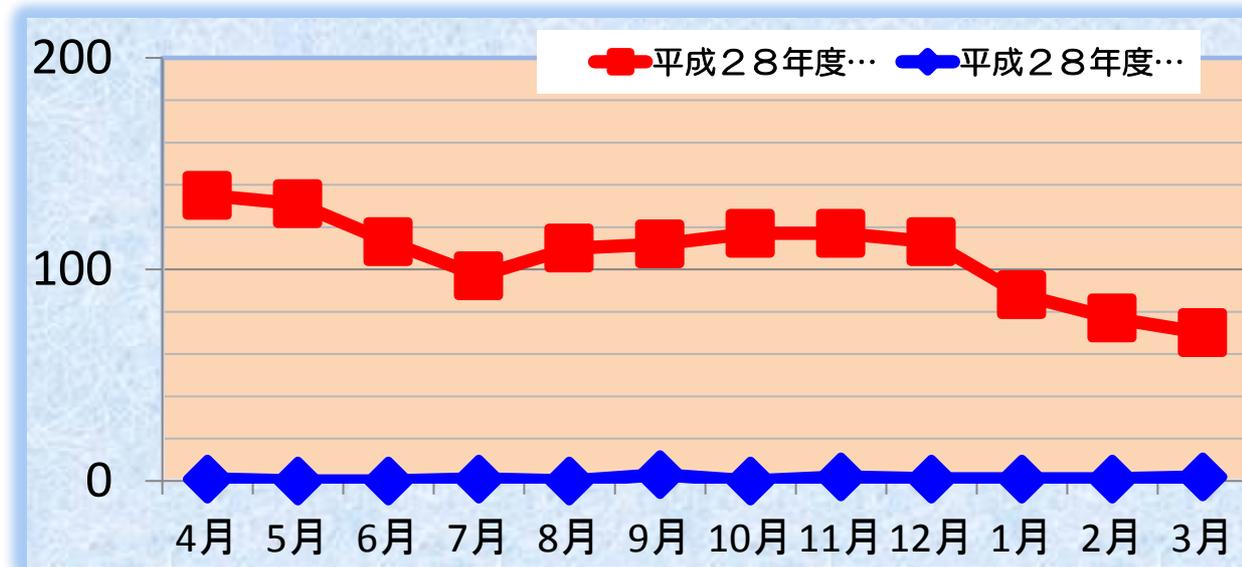
7. 地域医療支援病院運営委員会・開放型病院運営協議会(年4回)

【今後の課題・展望】

平成29年度は更に院内外との連携を強化するために、地域医療機関訪問などを行い意見の収集に努めたいと思います。また、地域医療機関からの紹介患者の積極的な受け入れに取り組み、FAX紹介の対応、紹介元への受診、退院報告など速やかな返書ができるよう返書管理の充実を図りまた、相談機能の充実、効果的な病床管理等、連携室としての役割が果たせるように努力していきたいと考えています。

訪問看護室「菜の花」

【平成 28 年度訪問件数】



総件数:延べ1292件

【平成 28 年度総括】

27 年度末にスタッフが 2 名退職し勤者 1 名となり、常に厳しい業務環境での新たなスタートとなりました。利用者に質を落とすことなく、同様の看護サービスが提供出来るように各関係機関の協力を得ながら訪問看護の推進に努めました

訪問実績は全体的に右肩下がりではありましたが、昨年と比較し-125 件にとどまり目標件数はクリアできています。その中でも、緩和病棟、地域包括病棟、MSW、退院調整看護師との協力と連携で、昨年度と同様に私たちの看護理念(無理をしない、無理をさせない)に沿った在宅看護ができました。

【スタッフ】

訪問看護室長 医師 坂田典文

訪問看護室管理者 師長 山下啓子(外来管理兼務)

訪問看護師 仲島真子(外来兼務) 廣瀬万紀子(緩和病棟兼務)

浦部幸(5F病棟兼務)

【今後の課題・展望】

訪問看護室は、慢性的なマンパワー不足の状況にあり、次年度の活動範囲を縮小方向へと苦渋の決断をしました。人材育成が急務の状況にあります。

院内看護師に、もっと訪問看護を知ってもらい、誰もが訪問看護をやってみたいと思えるように、環境を整えマンパワーを増やし、利用者のニーズに答えることのできる訪問看護で、在宅支援を充実させたいと考えています。

地 域 健 診 室

【平成 28 年度総括】

平成 28 年度の健診総数は 3,640 件で、昨年度から 59 件減少していました。要因としては、熊本地震の影響で健診業務を休止したことが考えられます。健診内容別にみると、全国健康保険協会(協会けんぽ)生活習慣病予防健診は 1,416 件(昨年比-8 件)、乳がん検診は 470 件(昨年比+35 件)実施しました。乳がん検診の受検者及び問い合わせは毎年増加しており、早期発見の需要と 関心は高まっていると思われま

す。健診の種類は、協会けんぽ生活習慣病予防健診、山鹿市・和水町国保人間ドック、市町村共済人間ドック、一般人間ドック、法定健診、特定健診、山鹿市特定二次検査、後期高齢者健診、被爆者・被爆者二世健診、乳がん検診(山鹿市・和水町)、山鹿市肝炎ウイルス検査及び大腸がん検診、山鹿市役所・消防本部職員健診、病院職員健診等です。また、産婦人科外来が委託を受けている山鹿市子宮頸がん検診の予約について、乳がん検診と同日に受診したいとの要望を受け、今年から健診室が予約の対応を行っております。今年度は 10 月より HbA1c をオプション検査に追加しました。空腹時血糖だけでは判断できない食後高血糖や糖尿病予備軍の早期発見、受診勧奨に役立てています。

健診の対応は、診察・結果説明を豊永院長が行い、心電図の読影・被爆者健診は永野室長が担当しました。内視鏡検査は豊永院長を中心に本原先生、古閑睦夫先生に、胸写の読影・SAS の判定は坂田和子先生に、負荷心電図の判定は大庭先生に、眼底検査等の判定は柴木先生に、山鹿市特定二次検査は児島先生に、ご協力をいただきました。

保健師による特定保健指導は例年と同様に 100 件を超え、対象者のメタボリックシンドロームの改善を目標に、電話・手紙・面談で支援をしています。さらに、熊本県肝疾患コーディネーターとして肝炎サロン(主催:熊本県)の参加やウイルス検査の受検勧奨に取り組み、協会けんぽ肝炎検査勧奨件数は約 53 件でした。陽性者へ受診勧奨した結果、当院で抗ウイルス治療を開始され、排除した方もおられました。その際には外来の肝疾患コーディネーターと連携し、受診がスムーズに、かつ安心して通院できるように医療費助成制度に関する情報提供等を依頼しました。また、C 型肝炎ウイルスの排除後、しばらく検査を受けていない方に対しては排除後の発がんリスクを説明し、消化器内科への定期受診へ繋げています。

また、今年度は初めて満足度調査を実施し、受検者の方々から様々な意見をいただきました。概ね“満足した”との評価でしたが、更衣室が男女別ではない、待合室が狭い、設備が古いなどのハード面に対するご意見もありました。

【スタッフ】

病院事業管理者:豊永 政和

地域健診室長:永野 久俊(診療部内科長兼務)

保健師:渡邊 加寿子、鹿子木 光葉、原 沙織

事務:平野 明子(非常勤)、田川 友紀(委託)

【今後の課題・展望】

平成 29 年度は「胃がんリスク検査」(ABC 検診)をオプション検査に新設する予定です。ピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮度を調べる血液検査を組み合わせ、胃がんのリスクを 5 種類の判定で評価します。健診項目に内視鏡検査が含まれていない方や内視鏡検査に抵抗がある方には、判定に応じて画像精密検査を行う目安にもなり、比較的低侵襲な胃がん検診検査として有用と思われれます。また、満足度調査の集計及び分析を進め、受検者のニーズにあったサービスの更なる向上に努めたいと思っております。